

日本医学会分科会活動報告

一般社団法人日本内視鏡外科学会
理事長 坂井義治

- I. 医学および医療の水準の向上への貢献が日本医学会分科会にふさわしいと考えられる貴学会の独自の活動を以下に留意して記載をしてください。
 - a. 特に学術的に重要と考えられるもの
 - ① 領域横断的学会：領域間の情報共有と相互理解が得られる。2年毎に実施するアンケート調査結果により国内での各領域ごとの内視鏡手術の普及、合併症の推移を知ることができる。領域間での解剖用語の統一と共通する手技の標準化にも取り組んでいる。
 - ② 技術認定制度：創設後17年を経過し外科医の修練目標となり、この制度が内視鏡手術の安全な普及に貢献していることは上記のアンケート結果からも明らかである。これらのエビデンスをもとに5年毎に診療ガイドラインも作成・改訂している。
 - ③ 医工連携：器機開発のための企業紹介ばかりでなく、開発に伴う知的財産の権利や保護に関する情報提供、技術認定制度を通して蓄積される外科手術データベースを有効利用できるシステム作りを推進している。
 - b. 当該領域における国際的な役割
米国消化器内視鏡外科学会（SAGES）、韓国内視鏡外科学会（KSELS）とは毎年交互に joint symposium を開催し連携を図っている。また、アジア内視鏡外科学会（ELSA）とは outreach program として ASEAN の内視鏡手術の現地指導を行っている。新型コロナウイルス感染拡大により移動が制限される中で、ELSA と定期的な web seminar を開始した。欧州内視鏡外科学会（EAES）とも同様の web seminar を予定している。さらにバルセロナに本拠を置き、185の国々に手術教育プログラムを free-of-charge で web 配信している AIS (Advance in Surgery) channel 内に Japan section を設け、日本からの情報や知見を発信する予定である。
 - c. 活動からもたらされる社会的な意義
腹腔鏡手術やロボット支援手術など新たに登場する低侵襲手術の安全な普及を推進することで国民医療・健康へ貢献している。
 - d. 学会運営上留意している点
 - 1) 学会運営方針決定や決算の透明化
 - 2) 会員への魅力ある教育プログラムの提供
 - 3) 理事会への女性外科医の参画
- II. 日本医学会分科会にふさわしいと考えられる貴学会と他の分科会との連携による活動を記載してください。

日本消化器外科学会、日本泌尿器科学会、日本泌尿器内視鏡学会、日本産科婦人科学会、日本産科婦人科内視鏡学会、日本整形外科学会、日本小児外科学会、日本呼吸器外科学会とは技術認定制度の創立時より連携し、認定基準の統一をはかるとともに、内視鏡外科ガイドラインも共同で作成している。ロボット支援手術導入の指針作成においても情報を共有している。また日本外科学会で審議されている遠隔手術の推進については委員・オブザーバーとして参加している。